

# とよひら



編集

豊平区役所総務企画課広聴係  
〒062-8612 豊平区平岸6条10丁目  
☎822-2400 内線 214・215  
FAX 813-3603

## とよひら元気印 (第28回)

独立行政法人産業技術総合研究所北海道センター  
ゲノムファクトリー研究部門 豊平区東月寒地区

▶ DNAチップを開発した皆さん



### 生き物の力でモノづくり

北野通を清田区方面へ進み、八紘学園を過ぎると、大きな建物が立ち並んでいるのが見えてきます。ここが、産業技術総合研究所北海道センターです。産業の発展のために、さまざまな科学技術の研究を行うこのセンターには3つの研究部門があります。ゲノムファクトリー研究部門は、その中の1つ。植物や微生物の力を使って、医薬品などの生活に役立つ物質を作り出しています。

「ここでは、日本はもとより世界でも先端<sup>かまがたよういち</sup>に行く研究を行っています」。研究部門長の鎌形洋一<sup>かまがたよういち</sup>さんは力強く話します。

その成果や意義を広く知ってもらうため、毎年夏休みの時期に一般公開を行っています。

### 未来を見据えて

研究成果の一つ「光る酵母」は、ウミホタルという海の生物から取り出した「光る遺伝子」を酵母に組み込んだもので、有害な物質に触れると光ります。土や水の汚染を従来より簡単に調べられるものとして、今後の活用が期待されています。また、健康状態を調べたり、病気の診断に利用できる、遺伝子を使った「DNAチップ」も開発しました。

「持続可能な循環型社会を目指すことも私たちの重要な使命です。植物や微生物に必要な物を作らせることができれば、化学薬品を使うよりエネルギーは少なくて済みます。また、作る過程でできる不要物も減らすことができるなど、環境への負担が軽くなります」

「企業が行うには難しい、すぐに利益が出ないような基礎的研究もしています。5年先、10年先の活用を考えたテーマを探して、これからも研究を続けていきます」と、副部門長<sup>おおぎやさとる</sup>の扇谷悟<sup>おおぎやさとる</sup>さんは研究の意義を熱く語ります。今も北の大地で、人々の未来を見据えた研究が日夜続けられています。

▶ ①乾燥したウミホタルに水を入れてすりつぶすと：



▶ ②発光します。これが、「光る酵母」の材料になります

### 豊平区の人口・世帯数

|     |           |       |
|-----|-----------|-------|
| 人口  | 209,805人  | (-74) |
| 男   | 98,010人   | (-37) |
| 女   | 111,795人  | (-37) |
| 世帯数 | 104,569世帯 | (-15) |

(9月1日現在。( )内は前月比)

毎月14日は  
とよひらの日

### 豊平区ホームページ

「夢ひらく花ひらくとよひらく」  
<http://www.city.sapporo.jp/toyohira/>  
豊平区広報番組「豊平インフォメーション」  
FMアップル76.5MHz  
毎週木曜日午前9時30分～

